

◎岡山駅の変遷（岡山市立中央図書館所蔵の写真、絵葉書から）



木造、瓦葺きの駅舎（大正期）



大正 15 年（1926 年）に
改築された駅舎（絵葉書）



戦後の岡山駅



昭和 37 年（1962 年）
岡山国体開催の頃の駅前
広場の整備状況

1-3 軽便鉄道の発達

明治41年（1908年）の鉄道国有化後、明治45年（1912年）1月に施行された軽便鉄道法で支線網の建設が奨励され、全国で軽便鉄道の敷設が活発になりました。

西大寺鉄道は明治39年（1906年）に認可申請を出していましたが、明治44年（1911年）12月19日に観音駅（のちの西大寺町駅、西大寺市駅）と山陽線に接続する長岡駅の間で部分開業の後、明治45年（1912年）1月28日に長岡駅～森下駅間も開通し、吉井川の川湊として栄えた西大寺の町が山陽線の西大寺駅（現、東岡山駅）を経て岡山市街地と結ばれました。森下駅の先は門田屋敷まで延伸して市内電車と接続する予定でしたが、市街地での用地買収に難航し、西へ路線を変えて後楽園駅（現在の夢二郷土美術館の場所）を終点としました。

西大寺から岡山までの7.2kmを約30分で結んだ西大寺鉄道は、軽便鉄道の軌間（レールの間隔）が通常2.6フィート（1フィートは約0.305メートル）であるのに対して、軌間3フィートで敷設された点が独特でした。観音院の会陽の行事で多数の乗客を運ぶなど、他の軽便鉄道と比べて旅客数が多く、経営は比較的安定していました。

下津井鉄道は、宇野線の茶屋町駅から瀬戸内海に面する下津井までの約21kmを結んだ路線で、大正2年（1913年）に一部区間を、翌年に全区間を開通していますが、その先は丸亀までの航路と接続していました。

三幡鉄道は、旭川河口の三幡港から岡山市街への輸送能力を高めるため、大正4年（1915年）8月11日に開業しました。旭川の下流は土砂の堆積で水深が浅く、大型船舶の航行が難しかったからです。当初は網浜にあった岡山瓦斯株式会社の施設に近い桜橋駅が終点でしたが、国清寺駅まで延伸して市内電車と接続しました。しかし船舶の改良で京橋までの遡行が可能になり、自動車交通の増加に対応する都市計画で線路用地が道路拡幅の対象となったため、昭和6年（1931年）に廃止されました。



◎三幡軽便鉄道開業記念絵葉書から、ガス会社前（左）と三幡（右）（画像は岡山市立中央図書館所蔵）

11 『西大寺軌道株式会社 開業記念絵葉書』

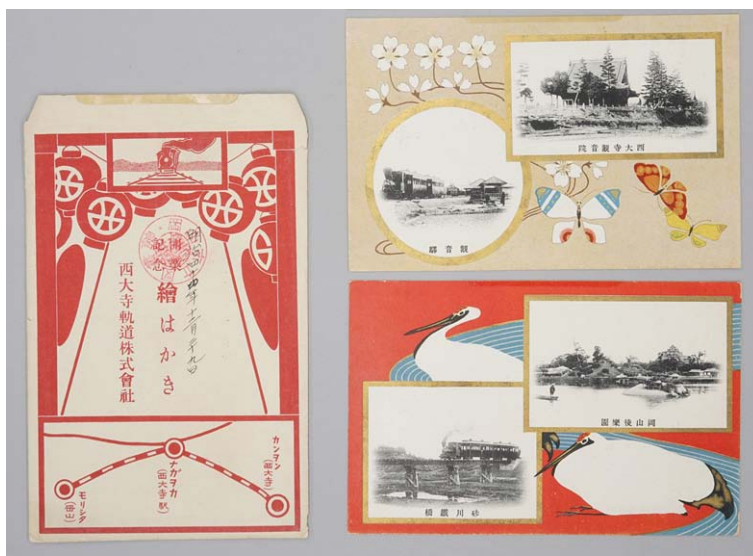
明治44年（1911年）12月29日、西大寺軌道株式会社

岡山市立中央図書館蔵（資料番号 70374）

（絵葉書2枚）各縦9.1cm×横14.0cm、（封筒）縦16.0cm×横10.0cm

西大寺軌道は、明治39年（1906年）に認可申請を行い、明治44年（1911年）に開業しましたが、開業時はまだ観音駅（後の西大寺町駅）から森下駅までの区間で、封筒の路線図には、そのことと途中の長岡駅（後の財田駅）で山陽線の西大寺駅（現在の山陽本線東岡山駅）に接続していることが示されています。

会社の名前は、大正3年（1914年）から西大寺鉄道株式会社に改められました。



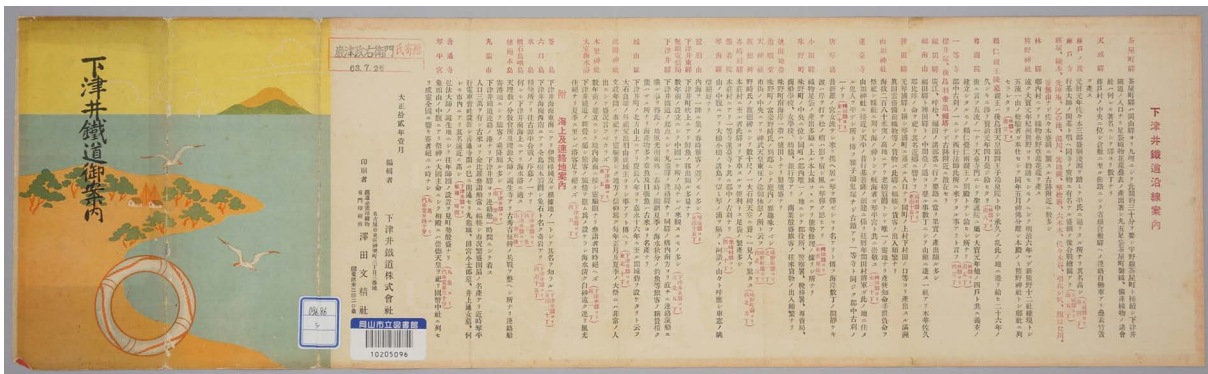
12 『西大寺鉄道時刻表（昭和13年5月1日改正）』

昭和13年（1938年）5月1日、発行者の記載なし

岡山シティミュージアム蔵（山本鐘生氏寄贈品）

縦51.8cm×横70.0cm

昭和13年（1938年）5月1日改正の西大寺鉄道の時刻表です。発行者の記載がありませんが、書きぶりから西大寺鉄道によるもののようです。上下とも1日33便で、西大寺町行きの列車には奇数の、後楽園行きの列車には偶数の番号がつけられています。途中の財田駅では、鉄道省の山陽線西大寺駅で接続する列車に、省線の上下の列車の発車時刻が添えられています。西大寺駅～後楽園駅間は28～29分で結ばれており、小さな駅では乗降客がないときには通過することになっています。



13 『下津井鐵道御案内』

大正 12 年（1923 年）1 月、下津井鐵道株式会社編集発行

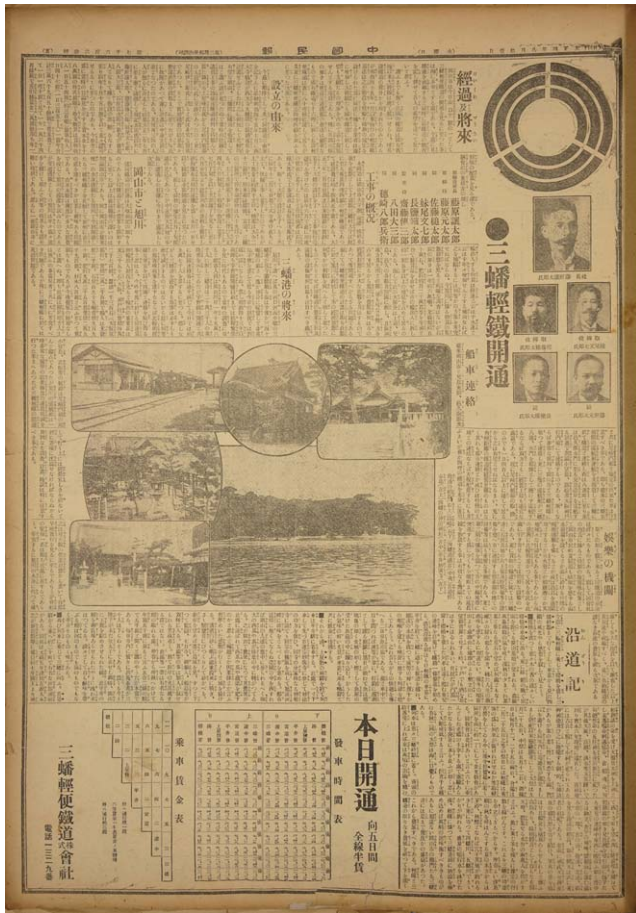
岡山市立中央図書館蔵（資料番号 10205096）

縦 18.4cm × 横 62.2cm

下津井鐵道は、本州～四国間を最短で結び、金比羅参りでも賑わっていた下津井～丸亀間の航路に接続する路線として、大正 2 年（1913 年）に宇野線の茶屋町駅から味野駅（後の兒島駅）まで開通し、翌年に下津井駅まで全通しました。

大正 12 年（1923 年）発行のこの沿線案内図は、まだ路線図が表現の中心ですが、参詣人の多い社寺のある山々を路線図の周囲に景観描写的に添えています。表紙には海の景色と救命浮輪が描かれており、航路への接続が示されています。

この資料は『岡山の港』（昭和 50 年（1975 年）、日本文教出版社）などの著書があり、『岡山市史』の編纂にも携わった巖津政右衛門（郷土史家）から図書館へ寄贈されたものです。



◎三幡輕便鐵道の開業を報じる『中国民報』
大正4年(1915年)8月11日の記事
(岡山市立中央図書館蔵)

14 「三幡村空中写真測量図 3000分の1」
昭和12年(1937年)6月、
大日本空中測量会社調製
岡山市立中央図書館蔵(請求記号092.911/69)
縦130.4cm×横73.2cm

三幡鐵道が廢止された翌年に作成された三幡村の写真測量地図です。戦前の岡山市近辺の地図で、耕地のひとつひとつまで明示されている詳細な地図は残っているものは少ないので貴重です。

地図の上が南で、右が旭川の沿岸です。三幡港から旭川の沿岸付近を通過して耕地を横切っている線が断続的にみられますが、三幡鐵道の廢線跡かと思われます。



1-4 鉄道の時代

官営八幡製鉄所の開業に象徴される重工業化と産業資本主義の発展が、日露戦争後の日本ではいよいよ強まり、鉄道網も全国に広がりました。大正時代から昭和戦前期にかけて、鉄道の発達のひとつのピークを迎えます。

江戸時代にも人々は徒歩や船舶で旅をし、伊勢参りや金比羅参りが盛んでしたが、鉄道の発達で旅は容易になり、短時間で長距離を移動できるようになりました。第二次産業・第三次産業への就業人口が増加すると都市の規模は拡大し、ライフスタイルの変化とともに大量生産・大量消費の時代が到来しました。そして都市はその魅力をアピールして観光客の誘致を競うようになりました。

博覧会の開催も機会になって制作されることが多かった当時の観光案内パンフレットには、東京や下関からの鉄道路線が周辺部に小さく縮約して描き込まれ、さらに都市近郊の路線を加えて付近の名所・旧蹟や重要施設を表示し、訪れる人々のために視覚に訴える描き方で市街を案内する工夫がされました。こうして生まれたのが鳥瞰図で、京都出身の画家、吉田初三郎とその工房による作品が特に人気を博しました。

昭和7年（1932年）に岡山市が主催した観光博覧会で吉田初三郎は岡山市の鳥瞰図を描き、その原画に基づいて配布用のパンフレットが印刷されました。岡山駅から岡山城のほうへ向かって当時の岡山の市街を魅力的に描いたこの原画は、一隻の屏風に仕立てられて保存され、当館の重要な収蔵品になっています。

そのほかにもさまざまな機会に多数の観光案内が作成され、岡山を訪れる人へ都市の姿を紹介しました。



◎大正10年（1911年）頃の車内風景
（西日本旅客鉄道株式会社岡山支社所蔵写真）



15 『岡山県』

昭和5年（1930年）11月3日、岡山県発行

岡山市立中央図書館蔵

（表紙）縦 19.1cm × 横 23.1cm、

吉田初三郎画「岡山県鳥瞰図」は、縦 17.7cm × 横 77.8cm

この観光案内は、岡山市内で陸軍特別大演習があった昭和5年（1930年）11月に、これを記念して岡山県が発行したものです。

鳥瞰図の作画者は吉田初三郎です。中国山地から流れ下る吉井川、旭川、高梁川の3川が児島湾や瀬戸内海に注ぐ情景を描き、岡山市を中心に県内の諸都市を結ぶ鉄道路線が表されていますが、画面の両端に東京と下関までを描き入れ、岡山県域が大きく強調されています。

裏面は岡山県内の名所案内です。吉田初三郎は、末尾に掲載された文の中で、岡山全県に有名無名の名所旧跡が多いとし、「往昔の吉備の国を中心とした史蹟と、海岸地方一帯の勝景、並びに山地部に介在する隠れたる温泉地帯」をあげています。そしてこの図の原画が、後樂園内に設けられた陸軍特別大演習の大本営の玉座近くに掲げられた旨を記しています。

表紙には吉田初三郎が、大きく羽ばたいて飛翔する丹頂鶴と岡山城を描いています。



「岡山県鳥瞰図」
の中央の部分



16 『備前をかやま』

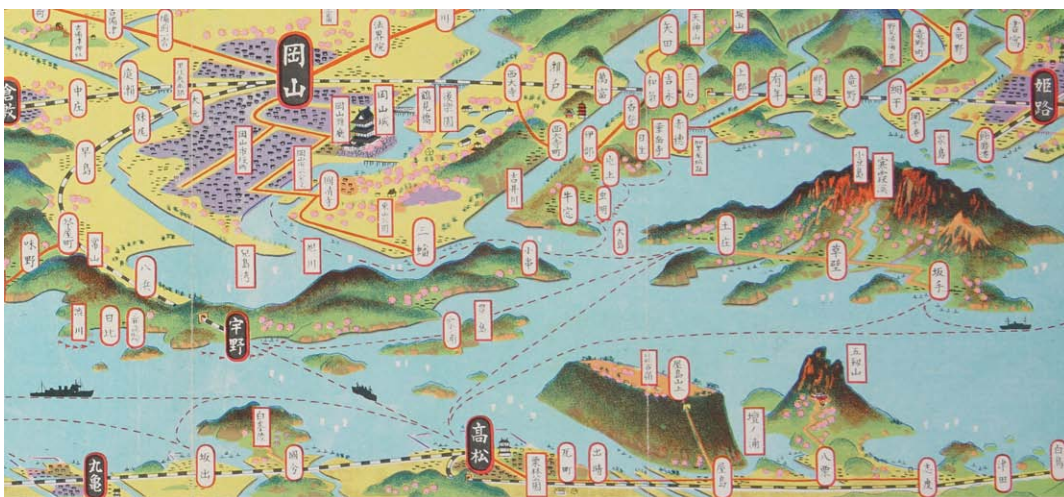
昭和3～14年（1928～39年）の間（刊行年の記載なし）、作成者・発行者の記載なし

岡山市立中央図書館蔵

縦 19.4cm × 横 62.5cm

このパンフレットは刊行年・発行者とも記載がありませんが、昭和3年（1928年）開業の岡山電気軌道柳川線が岡山市街図に朱線で記され、昭和14年（1939年）に焼失した五百羅漢堂がまだ記されているので、その間のものと推定されます。鳥瞰図は岡山市域をクローズアップして中心主題にしているものの、取り扱われている範囲は姫路～三原間にわたり、香川県と山陰地方も含む広域の図です。

小豆島、屋島、阿伏兎観音、伯耆大山などの、名勝地の山岳が強調されています。



部分図



17 吉田初三郎「岡山市鳥瞰図屏風」(六曲一隻)

昭和7年(1932年)
 岡山シティミュージアム蔵
 縦82cm×横406cm

昭和5年(1930年)の陸軍特別大演習に際しては、岡山県が吉田初三郎に「岡山県鳥瞰図」の制作を委嘱しましたが、その2年後の昭和7年(1932年)に、今度は岡山市が、市内で開催された観光博覧会のために彼に「岡山市鳥瞰図」の制作を依頼しました。

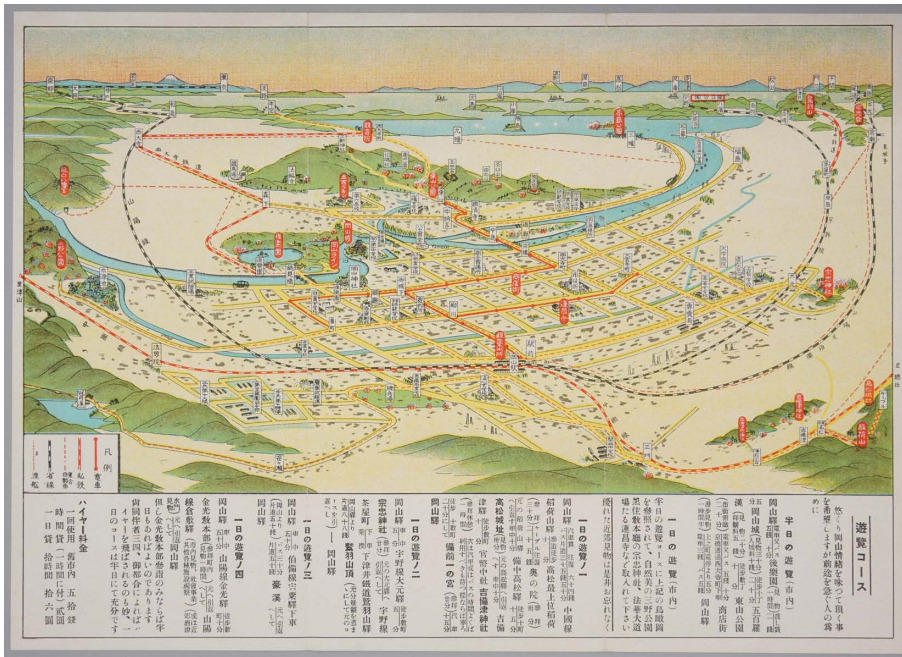
このときも鳥瞰図は折り畳み式のパンフレットに印刷されましたが、原画のほうは一隻の屏風に仕立てられ、昭和20年(1945年)の戦災にもあわず、岡山市で無事に保存されてきました。

この「岡山市鳥瞰図」の注目すべき点は、京山の上空から見た視点がとられ、岡山駅から市街地を見渡す構図になっていることです。画面の両端に下関(および釜山)と東京からの鉄道路線が小さく描き込まれていて、全国の鉄道網の中に岡山市が位置づけられていること、つまり観光などで岡山市を訪れる人のまなざしを意識している点に、初三郎の鳥瞰図の特色が発揮されています。

市内の重要なスポットは、名園・後楽園と、天守閣が大きく強調された岡山城と、船で賑わう京橋かわいいです。そして緑なす操山が背後に穏やかにそびえ、山麓には由緒ある寺院が点在しています。市街地の建物も詳しく描かれています。汽車や市内電車が画面に動きを添えています。

部分図





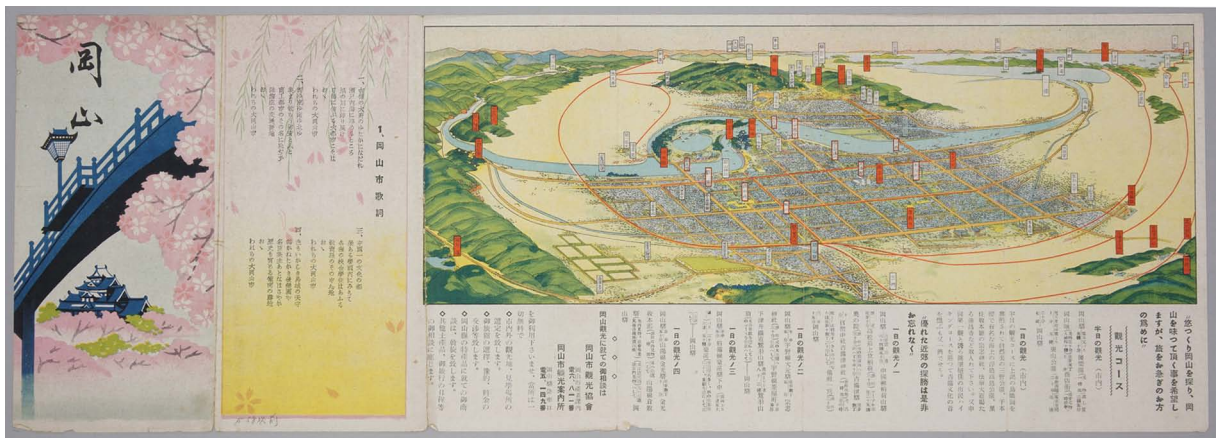
18 『岡山名勝案内』

昭和9～14年（1934～39年）の間（刊行年の記載なし）、岡山市役所産業課編集・発行
 岡山市立中央図書館蔵
 縦 19.9cm × 横 26.7cm

刊行年の記載がありませんが、鳥瞰図に記された瀬戸内海国立公園の指定が昭和9年（1934年）3月16日で、五百羅漢堂の焼失が昭和14年（1939年）なので、その期間中の制作です。

京山の上空に視点をとって岡山駅から東へ向けて市街地を描き、東京と下関からの鉄道路線を収録している点には、吉田初三郎の「岡山市鳥瞰図」の強い影響が感じられます。これを作成した岡山市産業課は、昭和7年（1932年）の岡山市観光博覧会を担当した課でもありました。

岡山市立中央図書館には、桜が咲く春の情景を描いた1点と、紅葉を描いた秋の情景のもの2点（1点は観光コースを、他の1点は岡山の土産物を記載）があり、その中から2点を選んで展示します。



19 『岡山』

昭和 15 年（1940 年）以降の昭和戦前期（刊行年の記載なし）、
 岡山市観光協会の記載あり
 岡山市立中央図書館蔵
 縦 18.7cm × 横 52.8cm

裏面の名所案内で、聖蹟高島宮址の記述中に文部省による昭和 15 年（1940 年）の指定
 のことが出ているので、それ以後の制作です。

全体の構図には、さきのリーフレットと同様に吉田初三郎の「岡山市鳥瞰図」の影響が
 強く感じられますが、鳥瞰図の下の方で岡山市観光協会と岡山市観光案内所へ観光の相談
 を勧めていることから、岡山市産業課が制作に関与した可能性が考えられます。その付近
 に書かれている遊覧コースや土産物の案内も、岡山市産業課の編集 fr 昭和 10 年（1935 年）
 3 月 31 日に岡山市観光協会から発行された小冊子『備前をかやま観光読本』の内容と近似
 しており、関連をうかがわせます。

部分図

